講義名	事例演習					授業形態	
担当教員	長田　貴仁	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 １時限				
		単位数	0	履修開始年次	１年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

主題：事例研究の方法と実践
概要：ビジネス・ジャーナリズムとアカデミズムの両方を経験した「アカデミック・ジャーナリスト」が、両者の相違点を踏まえ、ケーススタディの実際に触れる。
さまざまなケース（事例）を通して、ビジネス・リベラルアーツ（ビジネス関する教養）も重視した講義内容とする。
ケースを表層的に見るのではなく、視点を変えることで洞察（Deep Insight）する。
頭の体操をする講義だと考え、大いに会話を楽しんでもらいたい。1限の講義だけに目が覚めることでしょう。

到達目標

1．経営学における事例の扱い方について理解が深まる。
2．事実を洞察する能力が高まる。
3．リサーチく・クエスチョン、ディスカッションの技術が身につく。
4．「ジャーナリスティック・ケース」と「アカデミック・ケース」を比較検討できるようになる。
5．ビジネス・リベラルアーツ（ビジネス関する教養）を修得できる。

提出課題

期末レポート：本講義で学び取った内容に基づき、自身の研究にどのように役立てるか、とテーマについて執筆してもらう。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

教授側から一方的な講義を展開するだけでなく、すでにリサーチしてきた現代的課題について、受講生から質問、問題提起を行ってもらい、それについて、解説、議論していくというインタラクティブな講義を行う。その場でフィードバックする。

評価の基準

期末に提出してもらう自筆ケース：40%、
質問、問題提起、ケース・ディスカッションなどにおける積極姿勢と洞察力：60%。

履修にあたっての注意・助言他

教科書を自主的に読み進めて欲しい。読んでいることを前提に講義を展開する。そこから学び取った内容を期末レポートに書いてもらう。
毎日、「日本経済新聞」（電子版も可）を読むこと。「日経ビジネス」、「東洋経済」、「ダイヤモンド」、「プレジデント」、「エコノミスト」などのビジネス誌も定期的に目を通しておき、常に「情報武装」しておくことが望ましい。
テーマを決め、それに関する記事をスクラップブックに貼り（デジタル処理してもいい）、熟読し関連情報を調べること。
欠席する場合は、事前に届け出るように。

教科書

.ビジネス・ケース・ライティングの方法論的研究.	長田貴仁	中央経済社/碩学舎/碩学舎	3000	9784502422812

参考図書

その他

適宜、授業中に資料を配布する。

授業計画

1．オリエンテーション
2．ジャーナリズムと経営学の「建設的摺り合わせ」
3．「ビジネス・ジャーナリズム」とは何か
4．ジャーナリスティック・ケース論
5．アカデミック・ケース論
6．「ケース・ライティング」の実践
7．読ませるための「一工夫」
8．「合理性と例外」を超える洞察
9．「社会的影響力」を持つことの是非
10．オンライン戦国時代
11．ネット・メディアに見る具体例
12．書籍に見る具体例
13．経営学と表現
14．どうする「修士論文」
15．まとめ
（注）受講生からの質問、問題提起を中心に双方向型の講義を行うので、必ずしも上記の内容で固定されてはいない。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
○	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：授業中に行う質問、問題提起を考え、そのケースについて調べておくこと（1時間）。
復習：授業で得た知見を反映し、教科書を自主的に読み進めること（2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」を育成するため、
1．課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる(情報収集力)
2．収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる（情報分析力）
を高める。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

ケース分析を行う場合、表面的に読み取るのではなく、洞察する力を高めるため、教授が質問を連発する。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。著名経営者やビジネスマン、技術者にインタビュー、執筆、編集した経験をもとに、現代ビジネスの実態について言及し、経営学とジャーナリズムの観点から理論的・実践的知識を教授する。

備考

留学生も多いことから、異文化間コミュニケーションに配慮した教育を行う。